



# あ・そうかい通信

## 総会開催・新体制船出！

創立3年目の春を迎え、新年度の幕を開ける定例総会が4月24日、麻生市民交流館やまゆりで開かれた。



新運営委員

史上初！ビデオメッセージによる就任挨拶

### 新運営委員の紹介

- 会長 小池陸夫
- 副会長 田島潤
- 会計 佐々木直子
- 庶務 原信子

- 中山正夫
- 三日尻一吉
- 中込清皓
- 事務局 植木昌昭

### 新会長就任挨拶

小池陸夫

あ・あそうかいの会員の皆様 4月から1年間、会長を務めます小池陸夫です。どうかよろしくお願いします。



小池会長

写真：中込清皓

昨年当初から あ・そうかいに入会し、1年経過した時点で、これは何と幸運な事かと痛感しました。そうではありませんか。何の努力もなしに、60名近くの遊び友達、学び友達、話し友達を手に入れることが出来たのですから。

### 魚眼・複眼

「麻生市民交流館やまゆり」が今年4月に開館10周年を迎えた。開館当時は運営にあたる区民が集まるかが心配されたが、初代のアクティビニアセミナーの卒業生で結成された「かよおう会」がその任にあたった。あれから、あつというまに10年が過ぎ、現在「あ・そうかい」のメンバーの多くが運営スタッフとして活躍。そして、今回の総会で6人の方々が「あさお市民活動サポートセンター」の理事に就任、次の10年の歴史を作ることになる。

友人を作る機会を提供していくこと、特に高齢者の日常的な行動範囲である「地域」にその役割が期待されている。相談する相手もない寂しい日々をおくる高齢者を一人でも減らしていく、地域社会における新たな「機会づくり」をになう同館を、我々で力強く支えていこうではありませんか。

### 会員投稿欄

文…佐藤次郎  
写真…斎藤和彦

## 読書の楽しみ

飯塚敏洋

若い世代を中心に活字離れが進んでいるとの新聞報道を、改めて「大学生の読書時間『0』が5割に」（2月24日の朝日新聞）という記事に接し、活字離れの深刻さに危惧を覚えたのは私一人ではないと思います。活字離れの背景には「本を読まなくても生きていく上で支障はない」という認識があるものと思われまます。本当に読書は生きていく上で何も価値がないのでしょうか。

音楽は音が基本であるように読書の基本要素は言葉です。音楽は楽器が奏でる音の微妙な違いを聞き分け、音の繋がりを味わうように、読書は言葉の微妙な色合い、肌触りを確かめながら、言葉の繋がりが確かな文章を味わうことが基本です。また、考えるという行為は言葉で考えることであり、自分の知らない言葉で考えることはできません。

従って、貧弱な語彙や幼稚な言葉しか知らない人が考えることは想像力に欠けた貧弱な考え、自分本位の子供じみた考えになるのは必然の理です。

そこで、これから私なりの読書の楽しみ方、文章の味わい方を村上春樹のデビュー作である「風の歌を聴け」から私が立ち止まって考えたところを書いてみようと思います。

まず1ページ目の冒頭に

「完璧な文章は存在しない。完璧な絶望が存在しないように文章がいきなり出てきますが、「完璧な絶望が存在しないように完璧な文章は存在しない」と表現すれば、哲学的で格調の高い文章になるのに敢て一つの文章を二つに分け、最後に「ね」を付け加えることによって、文章の味わいをがらりと変え、硬い表現を軽いタッチの柔らかい表現に変えています。そのテクニクには脱帽です。

次に本文の最終ページに友達と別れ一人夜行バスで東京へ帰る僕の心象風景を描いた

場面で、「遠い汽笛が微かな海風を運んでくる。」という文章があります。普通にも考えたら「海風が汽笛を運んでくる。」とするところを敢て海風と汽笛の位置を逆にして、さらに、遠い、微かなという形容詞を付加することで主人公である僕のメランコリーな気分を詩的に表現しています。言葉に對する感性の鋭さにまた脱帽です。

さらに、最後の段階で「あらゆるものは通りすぎる。誰にもそれを捉えることはできない。」という文章で締め括っています。何かネガティブで人生の儚さを感じさせますが、あらゆるものを風に喩えてみて、「風は通りすぎる。誰にも風を捉えることはできない。」ただ、風が木の葉を揺らす微かな音や遠い汽笛は誰にも聞き取ることができ。風が奏でる様々な音色（歌）に耳を澄ますことにより、自分は今、生きているという実感を捉えることができる。」とポジティブに解釈することで、「風

の歌を聴け」の主題が自分なりに理解できた次第です。自分流の勝手読みも読書の楽しみの一つであると思います。



### 会員投稿欄について

自己紹介カードを読めば分かるように、あ・そうかいのメンバーは、実に多種、多様な才能、キャリア、知識、趣味をお持ちの方が多く。

皆さん！それらを宝の持ち腐れにしないで、他の人たちにも紹介、披露し、分け与えてください。そのための手段の一つとして、この「会員投稿欄」を利用していただきたくです。ぜひ今号の飯塚敏洋さんの後に続けてください。洋さんのお考えの方は、担当井口までご連絡願います。また、こちらからお願いする、その節はご協力の程どうぞよろしくお願います。

### 季節のうた

今号は今の季節からは、や

や離れますが、我が街の母なる川「多摩川」の歌を取り上げました。

（多摩川の源流をたどる旅全5回が5月9日完了しました）

・多摩川の砂にたんぼぼ咲くころはわれにもおもふ人のあれかし 若山牧水

・暖かき春の河原の石しきて背中あはせに君と語りぬ 馬場あき子

・多摩川の川原明けゆき遠山の秩父の山に雪降りぬらし 佐々木幸綱

・多摩川の清く冷くやはらかき水のこころを誰に語りむ 岡本かの子

### 編集後記

あ・そうかいには3年目を迎えました。今期も頼もしい運営委員が就任されました。会員も増え、分科会もいっそう充実されつつあります。前途洋々のあ・そうかい！この会が皆さんにとってさらに心地よい「居場所」になるよう編集子も努力して参ります。